

ラジオの放送は放送局から電波を飛ばしてるんですけど、聞き取ることができるのはチューナーで周波数を合わせた人だけです。合わせてないのに聞こえるということはないです。スイッチを入れて周波数を合わせた時だけ、その番組のメッセージを聞くことができるということです。

神は全ての人に語りかけておられたのですが、その語りかけに対して、応える心の準備ができていた人にだけそれが届いた。その代表的な1人がアブラハムという人物であった。神はアブラハムに心の準備ができていることをご存知で、アブラハムに語りかけられた。これが、アブラハムが選ばれたという第1番目の理由です。

第2番目。“アブラハムは小さな家族の1人でしかなかった”ということなんですね。どういふことかと言いますと、大国の王子であるとか、帝国の主君であるとか、御曹司であるとか、或いは有力部族の族長の倅であるとか、そんなんと違うんです。彼は今まで所属していた部族から離れて、1人で家族を始めていく人なんですね。昔の古代世界の中ではあり得ないことです。

彼が所属していた部族から離れて行った理由は、創造主の命令に従ったからです。「あなたは父の家を離れて、わたしが示す地へ行け」という神の言葉を聞いた時、彼は行く所がどこかも知らずに、目に見えない神に頼って、一族が住んでいる場所から離れて、そこに旅立って行くんです。つまり、1人から始まったんですね。神に従って行った少数の人物であるということなんです。

ところで聖書の中に、“なぜ神はユダヤ民族を選んだのか”について説明している箇所があるんですね。それによりますと、「地上のどの民族集団よりも小さかったからだ。神は小さな民を用いて大きなことをなさることによって、その大きなことが出来たのは神の力によるのだということ、他の人の目に明らかにするのだ」と仰っているんです。

以前何かの番組で、浜辺に漂着した廃材というか、木材・木を使って組み合わせて、見事なログハウスを建てた人のことをやってたんですね。実にオシャレで、まさに男の隠れ家みたいな所で、私も「そんな所があったらいいなあ」と思いましたね。

ところで、この人は廃材使って、センスの良いオシャレな小屋を造ったんです。もし超一流の木材を使って一流の建物を建てて、素晴らしい出来栄えになったら、それは「材料が良かったからだ」という風に言われかねませんね。ところが、材料というのは誰もが見向きもしない廃材・誰もが見向きもしない魅力のない物・捨てられていた物を組み合わせて、素晴らしい物を造り上げたとするならば、それは、造り上げた人の大工としての技能の素晴らしさを一層際立たせることになりますね。

神は偉大な民・有力な民・数が多い民、そういうものを使って偉大な奇跡をした・偉大な働きをしたということであれば、神がすごいからじゃなくて、元々この民族がスゴイからということで、人々の目が人に向けてしまいます。

しかし、小さくて・名もなくて・数が少なくて・弱い民を用いて、神はその民に約束した約束を全部

成し遂げて、偉大な奇跡を行われたとするならば、それを見た周りの民族は、「彼らが信じている神はすげえ！本物だ！」ということになるのです。これが第2番目の理由です。

第3番目の理由です。どういう理由で神はアブラハムを、そして、アブラハムから出て来たユダヤ民族を選んだのか？ それは、ユダヤ民族以外の民族を祝福するためなのです。

聖書の創世記12章に、こういうことばが書いてあるんですね。

創世記12章1-3節

主はアブラム（アブラハムのことです）に言われた。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民（くにたみ）とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」（聖書新改訳2017）

地の全ての部族・民族・国語・国民は、ユダヤ人によって祝福されるために、つまり、神の祝福を伝えるために、伝えるパイプとして、器として、ユダヤ民族が選ばれたのだと聖書は語るのです。

今年2020年は新型コロナウイルスの蔓延で、ほんとに世界中が引っかけ回されましたね。

今 世界中の研究機関が、ワクチン開発にしのぎを削っているところです。

ところで、ワクチンによって完全に撲滅された病気があるというのをご存知ですか？

天然痘です。おっそろしい病気だったんですよ。

この天然痘で平城京が滅び、ローマ帝国が滅び、インカ文明が滅亡したのです。

しかし現在、この天然痘に罹っている人は、全人類74億人の中に1人もいません。

撲滅されたのです。天然痘が撲滅されるまでの間、最後の最後まで残っていた天然痘で悩んでいた国が6つあるんですね。6つのうち4つがアジアで、2つはアフリカなんです。

4つのアジアはどこかと言いますと、インド・バングラデシュ・パキスタン・ネパールの4つです。この中で特にインドが酷かったんですが、特にベンガル州（カルカッタの辺り）が大変だったと言われてるんですね。

この4つの国には1つ共通点があります。それはみな、ヒンズー教を篤く信心される方々が多くおられたという所なんですね。この人々の中で、天然痘が猛威を振るっていたのはなぜでしょう？

彼らは天然痘ワクチンが手に入ったとしても、それを打ってくれる人がいたとしても、断固として拒否したんです。なぜ拒否したのか？

ヒンズー教の神様の中に、シトラマタという女神がいたんですね。この女神は天然痘の神なんです。ロバにまたがり、宝石とほうきと不死の水を満たした壺を持っているんですね。

そういった壺を献げるヒンズーの女神、それがシトラマタなんです。

人々は「天然痘に罹るということは、シトラマタから選ばれた幸福の道。現世ではものすごい苦しみを受けるけど、来世では幸せになる」という風に信じたのです。

そして、このシトラマタは（いいですか）女神なんです。つまり、嫉妬深い神なんですね。

もしワクチンなんか打って天然痘を治してしまったら、これはシトラマタの贈り物を「要りません！」と断ったことになり、嫉妬の怒りを買って、とんでもない災難が降りかかってくるのではないかということに心配し、「ワクチンがあったとしても受けません！」ということで断って来たんです。

この問題を解決しないことには天然痘撲滅はできません。この問題に立ち向かったのが、なんと日本人ドクターの蟻田功（ありた いさお/1926-）さんという人なんですね。

彼はどのようにして、この問題を解決していったのでしょうか。

ある村に入って、その村の人にだけ天然痘ワクチンを接種させるんですね。

ところで、どういう風にして受けさせたのか・納得させたのかというと、「天然痘のワクチンは牛の膿を使って作った物ですよ。」牛はヒンズー教では聖なる動物なんです。

「聖なる動物が提供した物で出来上がっているワクチンを使ったからといって、同じヒンズーの神々がお怒りになるはずがないではありませんか。」うまいこと言いますよね。

納得した村人がそれを受けたんですが、受けた村の中から、天然痘に罹患する方がガーッと減っていきんです。そして皆 健康的な生活をするんですが、誰も災難に遭わないんです。

特別な 神がかった 何か不幸な事が起こったとか…起こりません！

その一部始終を見ていた周りの村々・町々・都市の人々・その地域全体が「天然痘ワクチンはオッケ一だ」ということで一気に広まったんです。

一気に広まったのは、小さなサンプルで絶大な効果を見たからです。

なぜ神は人類全体に語られなかったんでしょうか？ いや、ユダヤ民族を選ぶまで語っておられたんです。しかし、語っても語っても、人々は聞く耳を持たなかったんですね。

そこで、ユダヤ民族という 特定の小さな小さなグループを選びました。

そして、彼らに約束し、その約束をことごとく果たし、彼らと共に歩み、彼らの人生の中で・歴史の中で奇跡を現し、その一部始終を周りの民族が見ることによって、「ユダヤ人がスゴイんじゃない。ユダヤ人が信じている神は本物の神。生ける神。そして、この神は私を造った私の神でもあられるのだ」ということに目が開かれていくのです。

つまり、神がユダヤ民族を選んだのは、ユダヤ人だけを愛して他の民族には何の関心もない…からではなく、他の民族に神ご自身・創造主なる神ご自身を明らかにするための器として、ユダヤ民族を選ばれたのです。

「わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族（民族）は、あなたによって祝福される。」

ユダヤ民族の歴史を詳しく知ることによって、私たちは“目に見えない創造主がおられる”ということを知ることができるのです。

『ごうちゃんねる』では、このユダヤ民族をシリーズのテーマに取り上げて、これからご紹介していきたいと思います。どうぞ皆さん ご期待ください。

それではまた、『ごうちゃんねる』でお目にかかりましょう。さよなら!!